

石油代替ジェット燃料事情

カタール航空は GTL を

KLM オランダ航空はバイオ燃料を

米国材料試験協会 (ASTM International) が 9 月下旬に、「合成炭化水素を含む航空タービン燃料油」の規格 (ASTM D7566 - 09) を出版しました。

<http://www.astm.org/Standards/D7566.htm>

これで航空会社は、石油系のジェット燃料に GTL (Gas-to-Liquids)、CTL (Coal-to-Liquids) あるいは BTL (Biomass-to-Liquids) を最大 50% まで混合した燃料を旅客輸送サービスに使用できるようになりました。

カタール航空が早速

10 月 12 日に、同社のジェット旅客機 Airbus A340-600 に GTL を 50% 混合したジェット燃料を使用して、「ロンドンのガトウィック空港からカタールのドーハ国際空港まで 240 名の乗客を運び」(10 月 20 日、Flight International) しました。

カタール航空の al-Baker 最高経営責任者が 2007 年 3 月に、同社は「GTL を初めて使用する航空会社になるだろう」(2007 年 3 月 14 日、Reuters News) と語っていましたが、ついに実現したわけです。

飛行時間は約 6 時間で、約 90 キロリットルの GTL 混合ジェット燃料が使用されたそうです。

今回の GTL は、Royal Dutch Shell がマレーシアのビンツルにある同社のプラント (製造能力 14,700 bpd) で製造したものです。

カタールでは、国営石油会社 Qatar Petroleum と Royal Dutch Shell が共同で、ラスラファン工業都市に Pearl GTL プラント (製造能力 140,000 bpd) を建設しています。

カタール航空が同プラントの GTL を本格的に使用するのは 2012 年からのようです。

話は変わりますが

KLM オランダ航空が 10 月 23 日に、同社のジェット旅客機 Boeing 747-400 に 4 基装着されているエンジンのひとつで、カメリナ(アブラナ科)から得られた油を水素化処理して製造したジェット燃料と通常のジェット燃料を混合した燃料を使用して、デモンストレーション飛行を行ないました。

同航空の Peter Hartman 最高経営責任者のほか、オランダ経済省の Maria van der Hoeven 大臣、WWF オランダの Johan van de Gronden 事務局長および報道関係者等の約 40 名が試乗しました。

使用した燃料には、カメリナの油を UOP(エンジニアリング大手 Honeywell の子会社)が水素化処理して再生可能ジェット燃料に仕上げたものが 50%混合されました。

本年 1 月の日本航空のデモンストレーション飛行でも同じカメリナを原料とした再生可能ジェット燃料が使用されました。

http://www.eneos-sohken.co.jp/library/files/20090209_web.pdf

ひとこと

航空各社が Boeing 製のジェット旅客機でバイオ燃料を使用した試験飛行を開始してからもうすぐ 1 年になります。

http://www.eneos-sohken.co.jp/library/files/20081222_web.pdf

ASTM は現在、植物油や藻を原料とした水素化再生可能ジェット燃料を石油系のジェット燃料に最大 50%まで混合した燃料を承認するための作業を進めています。

関係者は、「2010 年中に承認されるだろう」(10 月 1 日、Aviation Daily)と期待しています。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニューズワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)